

平成 19 年度

北嶺中学校入学試験問題

国 語

(注意)

- 1 問題用紙が配られても、「はじめ」の合図があるまでは、中を開かないでください。
- 2 問題は全部で **4 枚** で、解答用紙は 1 枚です。「はじめ」の合図があったら、まず、ページ数を確認してからはじめてください。もし、ページがぬけていたり、印刷されていない場合、静かに手をあげて先生に伝えてください。
- 3 答えはすべて解答用紙の指定された解答らんを書いてください。
- 4 字数が指定されている場合には、特に指示のないかぎり句読点も数えてください。
- 5 質問があったり、用事ができた場合には、だまって手をあげて先生に伝えてください。ただし、問題の考え方や、言葉の意味・読み方などについての質問には答えられませんので注意してください。
- 6 「おわり」の合図で鉛筆をおき、先生が解答用紙を集めおわるまで、静かに待っていてください。

弘前ひろさきから東京へ転校した小学校五年生の「僕」は、弘前と東京の学校生活の違いに戸惑いとまどを覚えながら、東京で初めての夏休みを迎え

東京の夏休みは、いやにながったらしい。弘前の夏休みは八月一日からはじまり三十一日でおわつたが、東京の学校は七月二十日から八月末日までだ。僕は一日、円タクで鎌倉へ行っただけで毎日一人家でいたので、すっかりあきた。あらゆる科目の分厚い宿題帖しゅくだいちょうを十冊以上もわたされていたが、そんな物は僕はひるげてみもしなかった。宿題と云うものがどんなことなのか僕はしらなかった。

…中略…

毎日が実際ながったらしかった。重ちゃんおちちゃんと話すのは、つまらないし、近所の子とゴロ・ベースをやるのも張りあいがなかった。僕らの遊び場は「島津さん」と云う、家の建ってない広いあき地で、僕はその塀へいの家の木からネズミ色の毛のはえたピロの実をもちで食べた。しかしピロもなくなると「島津さん」もつまらなかつた。毎日午後になると銭湯は、海どころか玉川へもつれて行ってもらえない子たちで、いっぱいになる。そんな連中を馬鹿ばかにしようとかかつたわけでもなく、ただ自分の中で①たまたまなくイラだたしいことがあつた。最初からゴマかす気じゃなかつたが、ある日帰りしなに番台のおばさんがツリ銭をまちがえてよこした。入る時わたしたのは五錢玉で一錢もらえばよかつたのだが、くれたのは六錢だ。トクをした（A）だけで、僕はそのまま風呂屋をとび出した。駄菓子屋の前で、ようやく僕はためらつたが六錢全部、新高の風船ガムを買つてしまつた。チューインガムは僕は嫌いなのだ。蠟紙ろうしのかわをむいて口の中へおしこみながら（B）で火をのむような気持ちをした。新高のは特別大きくて全部口にいれると舌が動かなくなつた。家までは、あまり遠くない。門のまえで粕かすを吐きだして一錢だけ母の手前、のこしておくべきだつたことに気がつき、お釣をもらうのは忘れたことにした。母は簡単に信用してくれた。…しかし、あくる日になると僕はもうゴマかすことの（C）しか考えなかつた。はじめ、おばさんは一錢しかよこさなかつたが僕がだまつて立っていると、洗い場の方をむいたまま五錢玉をつまんでよこした。こんどは僕はきつちり五錢の買いものをした。

一日中僕は、桶かじと桶とがぶつつかつて a 鳴っている風呂屋の湯気にまかれていようなものだつた。何をやつていても番台のおばさんのことを考えるとイヤ気がさし、二階へ上つて寝ころぶ。お日様がだんだんタタミの上にさしこむ頃になると、足のうらがムズムズしてくる。とうとう時間がやつて来て石ケンと手拭てぬぐいをさげると、説明しようのないある期待で僕の胸は水を吸つたように重くなる。何かしら、きょうこそはと思う。しかしやつぱり、おばさんは知らん顔で五錢よけいにくれるだけだ。夜ねむつていて僕は、②鬼が僕の髪かみの毛を引ツぱつていよう夢で、目をさました。電氣をつけてみると、僕の頭はチューインガムでふとんに貼はりついていた。

僕は銭湯で同級生の大熊君おおくまに会つた。その子はナニワ節のような声で話すし、その他やることは何でも大人にそっくりで風呂の中でも、手拭いを b ひねつて背中をこすり、オケをぼんと叩たたいて c 水をかぶる。学校でもわりあい出来る方で、おこられたことは一度もない。額が少し禿かげあがつていてその子が頭をふりながら先生の話をきいている所は、まるで教室の中にオジサンが一人いるみだだ。大熊君は豆シボリの手拭てぬぐいをたたんで頭にのせ、目をつぶつて湯につかっていたが、僕がどぶんと入つて行くと、目を細くあけて、

「お前、宿題をやつたか。休みは、きょうを入れてあと八日だ」と云つた。僕はびっくりした。僕はこの大熊のひと言で突然③東京の子の仲間に入れられた。宿題のもっている義務感が、はじめて僕につた

わつてきた。僕は小さな声で「まだ」と云つただけで、あとは何を話す元氣もなくなつた。聞いておきたい話はいっぱいあつたはずだ。しかし部屋へやのすみに積みあげたまま、ほうり出してある宿題帖の山の厚みが、すぐ頭にきて他のことは何も考えることが出来なかつた。家にかえると僕は、誰にも見られないように、こっそり宿題帖をひらいた。眼は、しかし活字の上を D だけだつた。どんなことを書いてあるのかサツパリわからないまま、ただ大熊の「宿題やつたか？あと八日だ」と云う声が耳にのこつて、たいへんなことになつたとアセるばかりだ。晩ご飯はスキヤキだつたが、肉が胸につかえて、「ネギを生で食べると頭がよくなる」と従兄の重ちゃんが云つたのを憶おぼいだして信じようとしながら、煮えかけのネギばかりよつて食べた。御飯ごはんがすむと、お膳おぜんのそばにのこつているのも落ちつかないが、二階へ行くのも宿題帖があるのを思うとイヤだつた。第一僕が晩ご飯のあとで電氣をつけて机に向つているところを、お母さんが見ればきつと怪あやしむにちがいない。お母さんが東京の小学生を知らないのは僕以上だ。そして、府立の学校をあこがれるのも僕以上だ。だから、この一行も書いてない帖面を見て、それが夏休みの宿題だと知つたら、心配するのは僕以上だ。僕はいまさら勉強するわけにも行かなかつた。

これはどうしてもテツヤをするほかはない、と僕は考えた。テツヤと云うのは従兄がよくいう言葉で、非常に威力いかりがあるように思えた。もちろん秘密にしなければならぬので、僕は寢床ねどの中で父と母とが寝しずまるのを待った。すつかり音がしなくなつたら、こっそり起き出して先ず物ほし台へ上つて深呼吸しよう。それから、それから、と想像しながら暗い部屋で眼をあけて待っているのだが、いつまでも話し声がきこえたり、あたりは静まらない。…僕は目をちよつと閉じることもある。しかし眠ねむりはしない。だが安心して起き出せるほど静かにならないうちに、不思議に物ほし台には d 日があつている。毎朝僕は、物ほし台に上つて空をみながら、失敗した計画をおもつてタメ息をついた。本当は④言訳ことわけだけで借金とりを追いはらつた人の、ほつとした一息だつた。

一日ごとに日は短くなる。夕方のくるのが早くなるのが僕にも解わかつた。僕は、もう二階で寝ころんでナマケモノに見られるのがおそろしく、せつせと外で遊ぶフリをしながら、夜のくるのを待った。暗くなるときの気持は、なんとも云えないものだ。消えてしまつた一日のために、それだけ荷の重くなる宿題と、近づいてくる厭いやな勉強の時間のこととで僕の胸は、あたりの空気と同じくだんだん黒くなつて行く。晩ご飯がすむと、もう早速、僕はふとんの中だ。夜中に起き出す冒険ぼうけんのことを考えると、イライラして、起きてはいられなかつた。ふとんの中で眼をさますために、チューインガムをぐしゃぐしゃ噛かんでいると口中くちゅうにおつてくるハツカの臭においで、ふと、つい此の間までの忘れていられた頃ころのことがかえつてなつかしく思い出された。

（安岡章太郎『宿題』より）

【語注】 *1 円タク：市内一円を均一料金で走るタクシーのこと。 *2 重ちゃん：「僕」の従兄。 大学一年生。

*3 ゴロ・ベース：ピッチャーがゴロを転がしてバッターがそれをすくい上げて打つ野球。

*4 五錢玉：当時の硬貨。十錢が一円である。

*5 新高：製菓会社の名前。チューインガムは昭和三年、風船ガムは昭和六年に発売された。

*6 府立：府で設立すること。この当時は東京府であつた。

問一 (A) (B) (C) に入る言葉の組み合わせとして、最もふさわしいものを次から選び記号で答えなさい。

- ア、A うれしき B 面白さ C 恐ろしき
イ、A うれしき B 恐ろしき C 面白さ
ウ、A 面白さ B 恐ろしき C うれしき
エ、A 面白さ B うれしき C 恐ろしき

問二 **D**に入る言葉として、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、ふむ イ、すべる ウ、転ぶ エ、歩く

問三 **a**・**b**・**c**・**d**に入る言葉の組み合わせとして、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、a カンカン b パツパツと c シュツと d ポコンポコン
イ、a カンカン b シュツと c パツパツと d ポコンポコン
ウ、a ポコンポコン b シュツと c パツパツと d カンカン
エ、a ポコンポコン b パツパツと c シュツと d カンカン

問四 ①「たまらなくイラだたいこと」と「僕」が感じているのは、どういうことに対してですか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、番台のおばさんが一銭でよいはずの釣り銭を間違つて六銭渡したこと。
イ、「島津さん」の隣の家の木からビワの実を食べつくしてしまったこと。
ウ、「重ちゃん」と話したり近所の子と遊んだりするのがつまらないこと。
エ、釣り銭の間違いを自分から言えずにずるずると過ごしてしまったこと。

問五 ②「鬼が僕の髪の毛を引ッぱっている夢」とは、「僕」のどのような気持ちを表していますか。説明しなさい。

問六 ③「東京の子の仲間に入れられた」の説明として、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、転校生とはいえ、自分も東京の小学生であることには変わりなく、夏休みの宿題をやらねばならないと悟らされたということ。
イ、夏休みまで周囲からは話しかけられずに転校生として過ごしてきたのだが、大熊から声をかけられて仲間になれたということ。
ウ、友達のない自分に宿題をやるよう諭してくれた大熊は、東京では出会うことのない本物の仲間だと実感したということ。
エ、弘前では宿題はテツヤしてやる風習だったが、そんなことでは東京の宿題はやっていけないと大熊が教えてくれたということ。

問七 ④「言訳だけで借金とりを追いはらった人」というのは「僕」のことです。これは、「僕」のどういう点をたとえたものですか。説明しなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

病院へ行くために、家を出た。

毎晩、酒を飲む私は、数年前から肝臓の機能検査をうけるようになっていたが、一週間前にも病院で血液採取と超音波の検査をしてもらい、その結果をきくため病院に足をむけたのである。

地下鉄に乗る。車内はすいていて、私は、最前部の席があいていたのでそこに坐った。肘をのせることのできる台があり、特等席といった観がある。難点は、他の車輛に移るドアがわたらにあることで、そこを通る人がドアをあけたままだと風が流れこんできたりして落着かず、しめねばならない。が、幸い電車がすいているので通る人もない。

そのうちに車内がこんできて、ドアを通りぬける人が多くなった。

初めに通ったのは、十七、八歳の太った娘さんだった。彼女はドアをあけ、隣の車輛のドアもあけたまま足早に歩いていった。娘さんの将来が(あ)ヨウイに想像できた。結婚すると家の中は散らかし放題、家の戸はすべてあけ放し。外出する時もドアの鍵をかけ忘れ、(い)アキスに入られることもあるだろう。

こんな娘さんと結婚した男は、まことに気の毒だと思いつつ、ドアをしめようとしたら、前の席に坐った小柄な和服を着た老婦人が腰を浮かしかけたので、私は手で制してドアをしめた。

今度は、*バーバリの*ダスターコートを着た男が歩いてきた。五十七、八歳の、会社の役員でもしているような身だしなみのいい、紳士と言つていい身なりの男である。

私は、この人に期待をかけた。世の常識もそなえていて、必ずドアをきちんとしめる。人の上に立つ男はこうであらねばならぬということをしめしてくれるにちがいない。

ところが、かれは、ドアを後ろ手にしめるしぐさをしただけで、ドアを半開きにしたまま隣の車輛に悠然と移っていった。私は、手をのびしてドアをしめながら、かれは会社の役員をしているかも知れないが、部下にいはり散らし、社員の①鼻つまみになっているにちがいない、と思った。役員の中には、よくこんな男がいて、会社の金で飲み歩き、飲むと癖が悪く、女性のスカートをはねあげたりする手合いだ。役員をしていても、まちがいに社長にはなれない。

小学校五、六年生と思える少年が歩いてきた。参考書や筆記用具が入っているらしい袋を手にはしている。春休みで学習塾にでも行くのだら

う。

六十歳近い男ですらだめだったのだから、この少年もあけ放しにして通ってゆくとおもうところ、②予想はずれた。少年はあけたドアに体をむけてきちんとしめ、次のドアもしめて隣の車輛に移ってゆく。□が立派なのだ、とおもう。彼女は、少年が幼い頃からきびしい躰をし、少年もそれを(う)スナオにうけ入れているのだ。

この少年は恐らく社会に出て立派な仕事をし、好ましい夫、父になる。ガラスを通して見える隣の車輛の少年の顔が、いかにも聡明そうにみえた。

前の席に坐る老婦人に眼をむけた私は、婦人の眼におだやかな笑みが浮かんでいるのに気づき、私も頬をゆるめた。婦人も私と同じようにドアをあけて通る人を観察し、ドアをきっちりしめた少年になんだ気持ちになっているのだ。

黒い革ジャンパーを着た二十四、五歳の男が歩いてきた。*ラフな身なりに、これも③あけ放しの組かとおもうが、かれは丁寧にドアをしめて隣の車輛に入ってしまった。

それについて二十一、二歳の娘さんが来て、これもきちんとドアをしめて通っていった。かなりの美人で、ドアをしめるしぐさがつつましい。結婚すれば、まちがいなく良い妻、良い母親になるだろう。

前の席に眼をむけてみると、老婦人はいつの間にか居眠りをしていた。

(吉村昭『ドアをしめる』より)

【語注】*バーバリ：防水加工した布。またはその布でつくったコート。イギリスのバーバリ社が開発した。

*ダスターコート：ほこりよけに着る、薄手の生地の子供用コート。

*ラフな：形式ばらない。

問一 〓 (あ)「ヨウイ」、(い)「アキス」、(う)「スナオ」について、カタカナを漢字に改めなさい。

問二 〓 ①「鼻つまみ」の意味を答えなさい。

問三 〓 ②「予想」とありますが、これはどのようなことを予想したのですか。本文中の言葉を使ってくわしく説明しなさい。

問四 □ にあてはまる漢字二字の言葉を、文中から抜き出して答えなさい。

問五 〓 ③「あけ放しの組」とありますが、本文に登場する人たちで「あけ放しの組」にあてはまる人を、次の中からすべて選び記号で答えなさい。

ア、十七、八歳の太った娘さん

ウ、バーバリのダスターコートを着た男

エ、小学校五、六年生と思える少年

カ、二十一、二歳の娘さん

問六 筆者は「ドアをあけて通る人」を観察した結果、「身なり」や「年齢」とのかかりについてどう思いましたか。本文中の言葉を使って、六十字以内で答えなさい。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一九八八年のアメリカには約三二〇〇万人の人びとが貧困ライン以下の生活をしていたという。この「貧困ライン」とは、四人世帯で年収一万二〇〇〇ドル強にみたない生活であるという。この線は、「南の貧困」(主に発展途上国に見られる貧困)を論じる時に世界銀行が用いる、一人あたり年間三七〇ドルという線とは、ずいぶん開きがあるようにみえる。

①この「ダブル・スタンダード(二つの基準)」は、「豊かな国」のせいたくと偏見にみちた基準と考えることができるだろうか？ある部分までは、そういう「せいたくと偏見」が存在すると考えていいかもしれない。

(A)、たとえばアメリカ国勢調査局の記述によると、一九七二年には「少なくとも一〇〇万から一二〇〇万のアメリカ国民が、あまりにもわずかしらか食費にまわせないために、空腹に苦しんでいるか、あるいは病気にかかっている。」これは収入の数字ではなく、実際に食物が手に入らないという数字である。巴馬瑶族の村人は四八〇〇円の年収で豊かに生きることができ、ニューヨークや東京の住民はその一〇倍でも、ほとんど生きていくことができない。これは単なるせいたくや偏見の問題ではない。

アジアやアフリカの多くの村々でテレビのないことは少しも貧困ではないが、東京やパリやニューヨークでテレビのないことは貧困である。ロスアンゼルスで自動車のないことは、「*ノーマルな市民」としての生活がほとんど出来ないということである。

②この新しい貧困の形を、説明しようとする理論が一般に用いる用語法は、「絶対的貧困」と「相対的貧困」という*コンセプトである。「南」の貧困は絶対的貧困であるが、「豊かな社会」の内部にも相対的貧困がある、というわけである。「相対的」という言い方は、「豊かな社会」の内部の貧困を的確に把握する仕方だろうか？

すでに見たように、東京やニューヨークでは、巴馬瑶族の一〇倍の所得があってもじつさいに「生きていけない」。③これは隣人との比較や不平等一般の問題ではなく、絶対的貧困を充足することが出来ないということである。

電話がなくても人間は生きることができ、一九九〇年代の東京で電話がないという家族は、義務教育の公立学校の「連絡網」からも脱落する。「特別な処置」ではじめて「救済」される)存在である。(B)その生きている社会の中で「ふつうに生きる」ことが出来ない。

これらは「羨望」(うらやましく思う気持ち)とか「顕示」(はつきりと表したいという気持ち)といった心理的な問題ではなく、④この社会のシステム(仕組み)によって強いらられる客観性であり、構造の定義する「必要」の新しい地平の絶対性である。

(貧困)のコンセプトは二重の*剥奪であるということ、[南の貧困]に即して見てきた。貨幣からの疎外(金銭を必要とする生活形式の

中で、金銭をもてないこと」という目に見える規定の以前に、貨幣への疎外（自然の中で営まれてきた豊かな生活から引きはなされ、金銭によつてしか豊かさを手に入れられない生活形式の中に投げこまれること）という目に見えない規定があると。このコンセプトは、形態をまつた（あ）コトにするようにみえる「北の貧困」（豊かな国の中に見られる貧困）にもそのまま当てはまる。第一次的な剥奪の巨大であることに応じて、「必要」のラインを定義する貨幣の数量も巨大なものとなる。第一次的な剥奪の⁴重層的であることに応じて、「必要」であることの根拠も重層的となっている。

⑤現代の情報消費社会のシステムは、ますます高度の商品化された物資とサービスに依存することを、この社会の「正常な」成員の条件として強いることをとおして、原的な必要の⁵幾重にも間接化された充足の様式の上に、「必要」の常に新しく更新されてゆく水準を設定してしまう。新しい、しかし同様に切実な貧困の形を生成する。

この新しく「吊り上げられた」絶対的な必要の地平は、このようにシステムが自分で生成し設定してしまうものだけれども、同時にこの現代の情報消費社会のシステムは、（この新しい「必要」の地平を含めて、）〈必要から離陸した欲望〉を⁶相関項とすることを⁷存立の原理としている。⁸原的な必要であれ、新しい必要であれ、すでにみたように現代の情報消費社会は、人間に何かが必要かということに対応するシステムではない。「マーケット」（市場）として存在する「需要」（必要とされること）にしか相関することがない。システムがそれ自体の運動の中で、ますます（い）⁹フクザツに重層化され、ますます増大する貨幣量によつてしか充足されることのできない「必要」を生成し設定しながら、「必要」に対応することはシステムにとつて原理的に¹⁰関知するところではないという落差の中に、「北の貧困」（先進国に見られる貧困）は構成されている。

それはシステムの¹¹排出物である。つまりシステムの内部に生成されながら外部化されるものである。

（見田宗介『現代社会の理論』より）

【語注】 *1 ノーマル：ふつう。標準的。 *2 コンセプト：大まかな考え方。物事の本質をとらえる考え方の形式。

*3 剥奪：無理に取り上げること。

*4 重層的：幾重もの層を作り上げていく様子。

*5 相関項：互いに関係しあっている項目。

*6 存立の原理：ほろびずに存在し続けるための根本原則。

*7 原的な：元からある。もともとの。 *8 関知するところではない：あずかり知ることではない。

問一 ——（あ）「コト」、（い）「フクザツ」について、カタカナを漢字に改めなさい。

問二 （A）（B）にあてはまる言葉として、最もふさわしいものをそれぞれ次より選び、記号で答えなさい。

ア、しかも イ、だから ウ、つまり エ、けれども オ、ところで

問三 ——①「この『ダブル・スタンダード（二つの基準）』」とありますが、何の基準なのですか。本文中の言葉で答えなさい。

問四 ——②「この新しい貧困の形」とありますが、それはどういうものですか。その説明として最もふさわしいものを次より選び、記号で答えなさい。

ア、ロスアンジェルズで自動車がないのは、「豊かな社会」の内部から落ちこぼれた者として周囲からひどく冷たく扱われるというもの。
イ、アジアやアフリカの村と違い、東京やパリなどの大都市でテレビをもたない人間は隣人と比較したときにみじめさを感じるというもの。
ウ、アジアやアフリカの村を基準にすると豊かに暮らすだけの収入があるはずなのに、「豊かな国」では実際には生活が苦しいというもの。
エ、アジアやアフリカの貧しい人々に比べ、「豊かな国」で暮らす人々ほど不平不満が多く、昔より心が貧しくなっているというもの。

問五 ——③「これ」の指しているくわしい内容を本文中の言葉を使って、答えなさい。

問六 ——④「この社会のシステムによつて強いらられる客観性であり、構造の定義する『必要』の新しい地平の絶対性である」とありますが、その説明として最もふさわしいものを次より選び、記号で答えなさい。

ア、ニューヨークのシステムによつて強制されるお金の基準であり、日本の社会において、新しい価値を絶対的にするために必要なもの
イ、東京の義務教育のシステムによつて無理やり行われるシステムであり、日本の社会で新しい基準を作り上げるために絶対に必要である
ウ、日本の社会のシステムによつて他人と同じようにされることであり、周囲に合わせて生きていくことが、この国では絶対に必要になる
エ、豊かな社会のシステムによつて決められる「ふつう」の基準であり、その社会における「必要」なものの新しい基準が、絶対的になる

問七 ——⑤「現代の情報消費社会のシステムは、ますます高度の商品化された物資とサービスに依存することを、この社会の『正常な』成員の条件として強いる」とありますが、その具体例を述べている文が三つ、本文中にあります。その初めと終わりの五字を、それぞれ抜き出して答えなさい。（句読点も字数に含みます。）

問八 本文の内容にあてはまらないものを次より一つ選び、記号で答えなさい。

ア、現代の情報消費社会のシステムは、人間にとつて何が大切かを考えたものではない。
イ、現代の貧困は、「絶対的貧困」と「相対的貧困」にはっきり区別することができる。
ウ、ますます増大する貨幣によつてしか、「必要」なものを手に入れることはできない。
エ、豊かな社会において「必要」なものの基準が上がることによつて、貧困が作られる。